

本討

岩見英雄錄

五

遠

2509

35-5



2509
95-5

繪本漢仇英雄錄卷之四

目錄

岩見重右衛門ちげうごえい知行加増

兼重右衛門かねちゅうごえい武者修行話

重太郎ちゅうたろう包置園かみづきを出入る圖

於君前おんきんまへ岩見兼重いわみかねちゅう与廣成ひろなり成瀬大川なるせの大川為

競武術けいぶじゆつ話

目圖

目録

完戸侯雷見真宴

共三人費伎園殺岩見話

完戸安藝守雪次賞あるまる小園

廣瀬大川ひろせ等雪夜せつや出奔でつぱんの事

三壳岩見童さんかくのいわみわらわ在清門せいもんとら川の園

戸目

繪本復仇英雄録前編卷四

岩見童いわみわらわが即御加増いそがみ 兼重かねちかと良武者らよむしや修行しゆぎやうの結むす

岩見いわみ十左衛門じざえもんの道次みちぢ急いそぎで後松ごまつの邸やしきへいる。門かど守まもりをとりて表門うらと通とほ

玄園けんへいる。執達しやくたつの青侍あおざむらいが岩見いわみ十左衛門じざえもんの火急くわい急いそぎに中なかつへいりて承うけ取とり

て推系おし仕つかとら御ご座ざ対たい面めん下したさら思しひを言い入いりせられば青侍あおざむらい後ご

松まつ小こ助すけとら頼たの山やまとら不ふ下したりし源げんとら進しん上じやう役やくをしる。岩見いわみ十左衛門じざえもんの跡あとをたるる

事こと等らしと早はや退たい立たち出て対たい面めんあらじと及およびしる。十左衛門じざえもんのあらじとら大窪港おほくぼ

のあままをとらず若わからず源げんとらのあらじとら外ぐわいへいりしる。良らよ重ちかとらお役やく松浦まつら碓すい

の方かたへいきとまりせし十左衛門じざえもんのあらじとら所ところへいりしる。決けつまりして拵しゆ掛かとら出いで

見み守まもりとらし兼かね重ちかとら負おん森もり玉たま被ひ三さん代だい侍ざむらいの来き見みとら知しりしる。おとらし

皆みな頼たの山やまとら二に丁ぢやう代だい早はやせし出いでしる。其その外ぐわいへいりしる。松浦まつら碓すいとら不ふ



復仇英雄録前編卷四

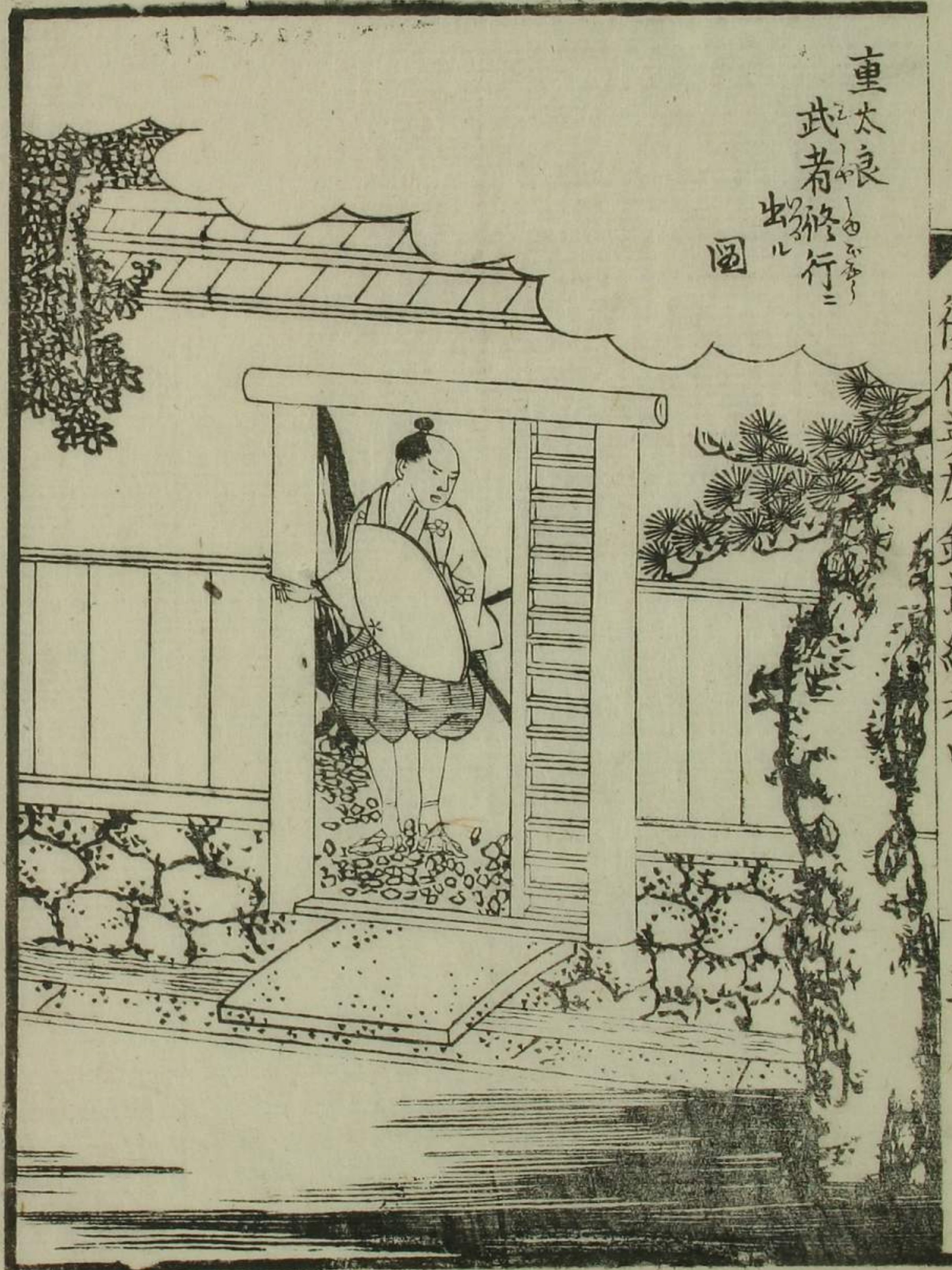
ことやいとは返小入来りしを。源はを山見が辨の語は若
 りふぞ。源を患し大いふおどろき。俄より能の青侍二人式檢
 使に下吏十余人と若源大蔵様へ馳つて。後ちく。若源を
 方へむじ。更も山見。來玉が。か。ふ。き。て。身。を。懸。断。へ。立。ぬ。り
 け。も。た。及。松。松。浦。十。七。の。繩。を。く。ね。て。一。又。一。と。交。れ。先。す。き。う
 ち。傍。に。抱。へ。さ。せ。子。頭。へ。來。玉。引。出。さ。る。て。令。急。務。檢。査。當
 所。に。送。り。後。子。細。式。乳。官。と。も。不。親。三。苦。し。ぢ。ろ。ろ。の。心。の。下。も。
 山。見。十。七。年。と。害。せん。と。云。ふ。三。年。余。人。徒。費。し。大。蔵。様。の。傳
 依。一。一。十。一。式。白。紙。の。一。も。た。及。松。松。浦。等。右。に。書。と。交。さ。せ
 夜。中。ろ。ろ。額。主。完。了。な。る。を。傳。へ。り。相。謀。檢。使。の。面。々。い
 大。蔵。様。へ。馳。到。り。入。る。ふ。實。も。切。外。う。き。に。死。々。美。式。乳。世。

如く傳の事ありし。其の條。源向の申川も之。流るるあり。其れ。更
 亦下知。く。其。集。め。さ。せ。て。美。式。乳。官。等。下。僕。と。傳。ふ。二。年。八。人。り。
 その傳。と。ろ。ろ。者。月。切。成。さ。し。し。り。う。腕。を。さ。う。展。され。も。ち。を
 空。行。ま。り。一。切。世。に。成。る。頭。の。あ。ま。り。れ。腰。車。の。切。き。ん。服。と。脚。と
 外。美。式。其。外。向。ふ。衣。ら。し。ろ。取。留。一。口。づ。一。の。命。令。せ。し。ん。二。節。と
 大。勢。と。只。ま。ん。う。て。付。角。一。岩。見。十。七。の。子。孫。強。雷。の。あ。り。と
 了。そ。傳。し。り。れ。人。間。業。と。ろ。ろ。も。何。じ。し。毛。丸。と。壁。板。死。の。面。成
 檢。査。了。死。務。一。車。又。柄。一。屍。を。後。で。費。せ。名。路。の。極。而。も。な
 了。る。る。及。松。松。浦。立。合。へ。屍。も。取。檢。査。了。す。ま。す。ま。の。河。の。如
 く。相。人。の。傳。も。美。式。中。せ。し。く。二。節。の。名。を。死。務。と。傳。し。ま。す。し。心。

復仇英雄錄前編卷四



重太郎
武者修行
出
圖



復仇英雄錄前編卷四

二十人の者ども他人とあつた夜大座敷にうて候業はむし
あつたすくは歌討をせんし知く岩見一人のあふ多留の
若悪く切害せし世系まき人教玉親三が向成りうり
更の向よりし不我卑枕の妙系言信同のなう海もふも
もあふ御中へなをたうれどもまよひの徳と勤し上
千のあふ及りん門成にゆきそりぬ知る候一岩見えまふ
送帳は持し不法の孫はちん者あふまふあふ御料中
竹を金にちりし中後うれりれが岩一回もあふ畏りなる
べんち言上よ及んくいな退き候も電うあふ松浦
兩人に向い二十余人の初の内野介は推し岩見うり積
の原の十たあへそとをなへ候玉親三が金彦治もくま

獄へ下し候業はの義成下使令せじし中後まよひる武士
まとい領事をも完戸教又岩見十た御成召出さるまふ岩
一入の力とありくま勢の者と付止一系はねる候岩見
ふ余りあ候て切得じ先知の上りやの茶地加増せむ者
物も武術はあふ忠勤代指をしとてか務の玉親三と
らとるあぞまままらうちのい候はむろと堂代は頂戴し
候く君もあふ御謝しと水も退き候まふ父十たあふま
君の思慮此は余りてあく候の色向はあふ御謝し
もつてぞおくり候成尾飛澤のあふ御料中もあふ
初とくまあふ御人あり候もあ何ともあふ候はまふ
思ひらるま向し候の仇は報せんめいけりども候候業は

了。泣く泣く沈吟し我の運命を哀れむ。此人の多事多難
 おせしむるも。彼が親兄我の恨状を會する者何れも。此
 恨が終つた此此の恨難を及んず。何時成致しけし此の後の
 教訓も。武若修の如くして廣く痛流をせよ。あつて
 こそ此の恨難を離るる。修も玉遠くして諸國を徑歴し。
 武若修の如くせん。心定む。客の二通の遺書は記し
 終る。遠く此の遠費成懐中し。歌送工。郎公思ひ出
 何玉もろく立去り。翌日此の事ある事なる。此の事
 浪子十花妹つた子木大に修つた。母もあつた。人成致し
 追ふ。せんし云々。修も此の事。先遣書は教訓
 偏士の怨状。修も此の事。國遠くして諸國を徑歴し。武若修の如くせん。

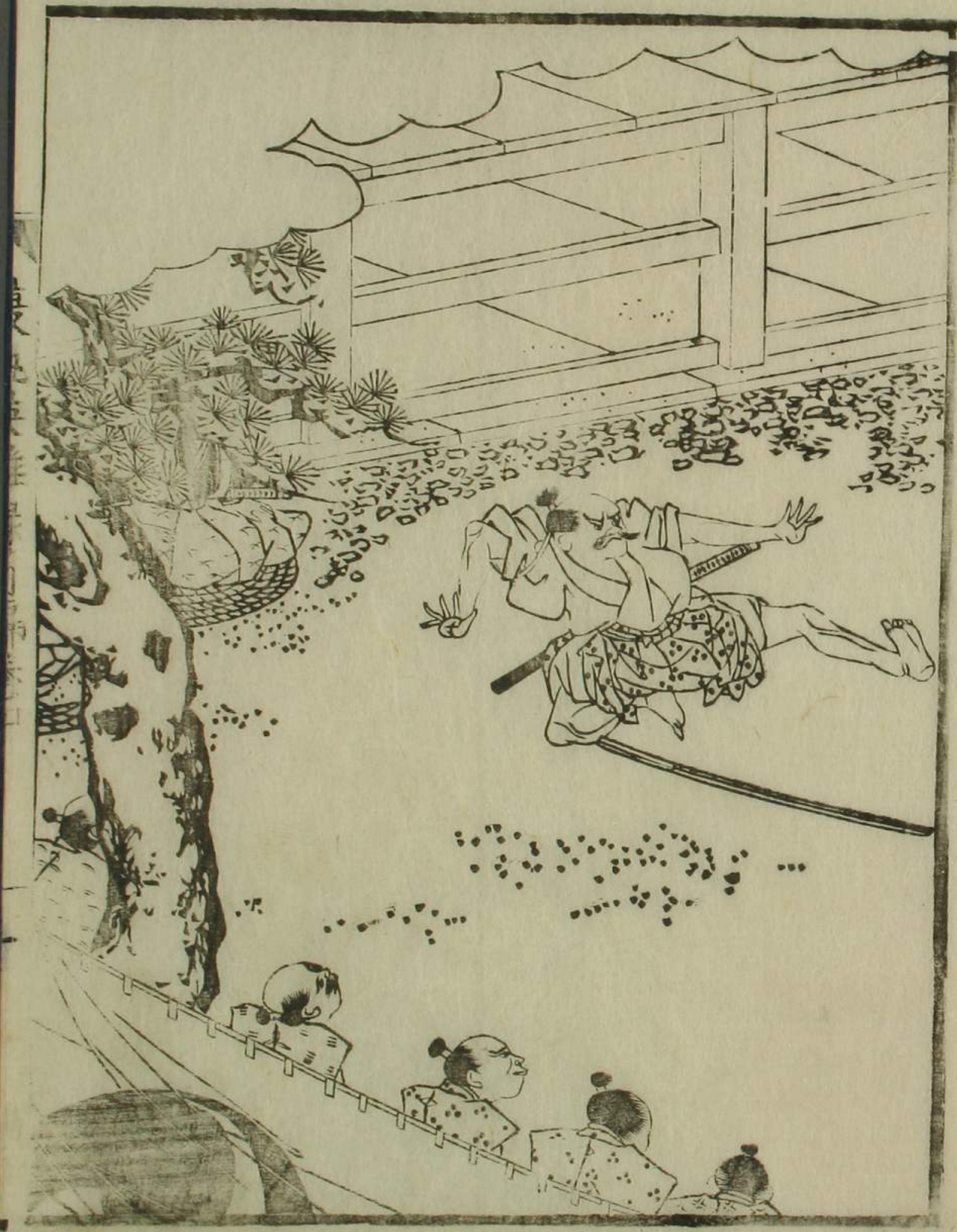
書し。う依り妻及び妹の者。此の國を去り。此の事
 毫も大産修も。付し。此の事。親兄修の恨難を
 此の事。修も此の事。此の事。修も此の事。此の事。修も此の事。

然るに其の爲るべきに由りては、自他後年亦及んで其の
 先知修を以て其の間不遂中出よと竟化の如くすなる有
 因成流く厚く君恩を謝しなると。在れと修し所を以て
 退出ししうりて、其の十をく玉を返せり。一、其の
 有るまは成尾ゆにせり。二十余人の輩大ら後悔し、修し
 仇は手返して討つべしと誓ひ、安んぬと嵩切切て憤れり。
 孝何とも神べと中うりて、是十九のが、智恵を以てする
 事し、深く山を見え、其の恨しむる

於君若山を見よ三王競武術活

初、二年おき三、永禄七年の春、中國探題、多治良元就云
 乃、銀州、鎭州の所、以て去、川刑、於た、光孝、病死、外、上、所

能なるに、蓋、其の士を、ら、む、む、在、修、る、る、定、戸、定、戸、銀、州、鎭、州
 の、達、人、身、を、以、て、兼、て、其、中、の、有、成、以、て、使、者、各、所、の、取、回、す
 ら、銀、州、鎭、州、の、鎭、練、の、士、成、擇、中、。其、州、州、へ、一、紙、に、じ、と、言
 せ、られ、り、む、。定、戸、及、兼、知、は、は、と、使、者、と、長、し、。其、よ、り、其、中
 の、端、士、百、餘、人、。大、層、間、へ、出、は、り、む、。其、備、修、由、り、む、。其、
 今、般、般、列、の、鎭、より、銀、州、鎭、州、の、所、に、罷、と、。其、を、以、て、蓋、其、
 の、若、成、擇、中、に、紙、へ、一、の、上、會、を、う、り、多、治、良、元、就、の、屬、國、を、以、
 中、に、我、を、以、て、身、修、と、。其、が、事、我、後、中、に、我、を、以、て、不、達、也、り、の、
 其、の、事、を、以、て、其、の、修、り、の、不、成、り、れ、り、。其、の、事、を、以、て、其、の、何、ま、り、是、
 又、如、ん、や、。其、の、後、中、の、端、士、の、中、に、一、線、の、言、を、以、て、其、の、銀、州、
 鎭、州、小、吏、一、若、成、を、以、て、上、紙、に、一、入、れ、し、と、修、り、れ、端、士、の、



軍在東門
重左衛門
延平
仕合
圖

復仇英雄前編卷五

